



自由と自立



国籍	ベトナム
職種	めっき
実習実施者	東電化工業株式会社
監理団体	いわきビジネスサポート事業協同組合

グエン ティ ミン トー
NGUYEN THI MINH THO

私は学校でよく作文を書いたので慣れていますが、今回「自由に書いてください」というテーマを見たら頭が急に真っ白になり、何を書けばいいのか分からなくなっていました。ふと子供の頃を思い出しました。

当時、私は家事、草むしりなど、私が母にさせられたことにうんざりしているだけでなく、学校に関することでも嫌でした。「なんで親や先生の言う通りにしなきゃいけないんだろう、好きなことを好きなだけやりたいんだ。」と何度か思いました。ある日、足し算と引き算の数学の宿題で、意図的に反対のことをしました。先生に逆らうつもりも、母を怒らせるつもりもありますがありませんでした。誰にも罰せられることなく、やりたいことをやれるというのが自由ということではないかと思い、その感覚を一度試したにすぎません。

時間が経つにつれ、ベトナムで生まれ育った私はいつの間にか大人になってしまいました。大学に入学した頃、バイク運転のコースに出ないといけませんでした。バイクに乗れるというのは、いつでも好きな場所に自分のバイクで移動できるということです。そのため、免許を取

れば、自分の望む方向に人生をコントロールできると考えました。両親も、「トーちゃんやっとな大人になったね。これから心の思う通り自由に行動してね。親はただ耳を傾けたり見守ったり、提案してあげるだけだよ。」

とよく言っていました。そのときから、私は「自由」が思ったほど幸せではないと漠然と感じていました。なぜなら成長して自立して自分で何でもできるようになって初めて、自由に選択したことに対して十分な責任を持つようになるからです。洋服、住居、就職先、結婚相手、親族を失う悲しみの乗り越え方など、小さなことから大きなことまで様々な選択があります。間違った選択をした場合は自分を責める以外に出来ることは何もあります。なんとなく思い悩んでしまいました。

大学卒業後、もっと自由になり、真に自立したいという理由だけで、日本に行くことにしました。家族を離れ初めて、何でも自分でやらなといけないと思い込んでいたのですが、そんなことはありません。なぜなら仕事はもとより生活も会社の人に手伝ってもらったからです。冬になると、週末にはスーパーに買い物に行ったり、きれいなところに遊びに連れて行ってもらいました。暖かい車の中で3年があっという間に過ぎて、このようなフレンドリーでやさしい同僚や会社の人についてまた会えるかとふと頭に浮かびました。皆様のご心配とご支援のおかげで、故郷から遠く離れた場所に住んでいても寂しくありません。

人が自立できれば、確かに好きなことを自由に選べるようになります。しかし、他の人への誠実な愛が人の魂を癒やしたり心に余裕を生んだりするということに今気がつきました。